

施設園芸に最適な環境は 宮城にあります



メリット1

施設園芸に適した
気象条件

冬春に対して夏は冷涼、
冬から春にかけての
日射量は九州と同程度



メリット2

充実した企業立地
優遇制度や助成事業

県と市町村等が連携して
支援



メリット3

成果を生み出す
技術支援体制

生産者自らが技術力を
高めることができる
バックアップ体制

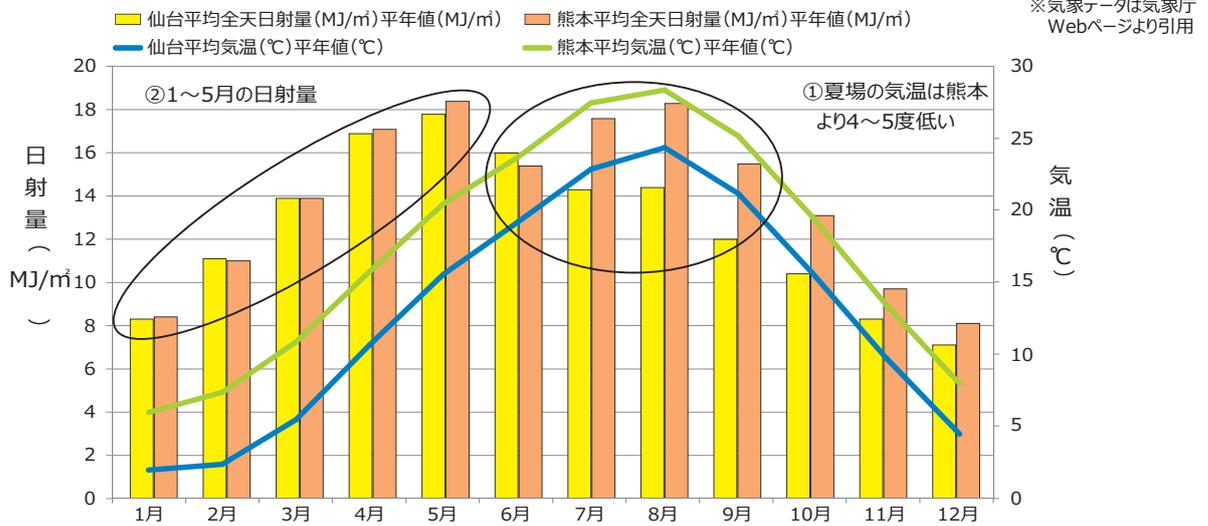


メリット1

施設園芸に適した気象条件



宮城県（仙台）と熊本県（熊本）気象を比較してみると？



①平均気温

熊本県（熊本）と比較すると、夏場は4～5℃低い。

②日射量

1～5月の日射量は熊本県（熊本）とほぼ同じが多い。

③積雪量

東北地方の中でも冬場の積雪量が少ない。

①夏の平均気温が低い

→夏越栽培に適する！

②日射量

→光合成には日射量が一番重要！

③雪が少ない

→ハウスが潰されるような積雪が少ない！

メリット2

充実した企業立地優遇制度や助成事業



優遇制度

●みやぎ大規模施設園芸立地奨励金

…県内に大規模園芸施設を新設・増設した農業法人に対し、投下固定資産額及び新規雇用者数に応じて、奨励金（最大2億円）を交付します。

●宮城県民間投資特区（農業版）

…認定を受けた基本計画に基づいて実施する復興推進事業については、税制の優遇や規制の特例などの一定の措置が受けられます。

●宮城県園芸用施設（ガラス室）の安全確保に関する指導指針

…この指針への適合が確認されたガラス室は、「宮城県建築基準」の適用を受けず、建築確認が不要となります。（仙台市、大崎市、石巻市除く）

●その他各市町村の奨励金

園芸施設等の整備に利用できる補助事業メニューを用意

助成事業

●産地生産基盤パワーアップ事業（国事業）

…生産・出荷体制の強化や改善を目的に、産地ごとの取組を支援

●大規模園芸経営体育成事業（県事業）

…年間販売金額1億円を目指し、販売金額向上に寄与する施設・機械等の整備の支援

令和5年4月現在



みやぎ大規模施設園芸立地奨励金



宮城県民間投資特区（農業版）



宮城県園芸用施設（ガラス室）の安全確保に関する指導指針



産地生産基盤パワーアップ事業



大規模園芸経営体育成事業（県事業）

メリット3

成果を生み出す技術支援体制と研究施設



● 先進的技術のフォローアップ体制

試験研究機関や農業改良普及センター等により、生産技術導入支援を行います。

さらに、先進的園芸経営体の育成に力を入れており、栽培管理者（グロワー）の環境制御技術の向上を図る研修会を開催しています。



● みやぎ環境制御技術交流ネットワーク

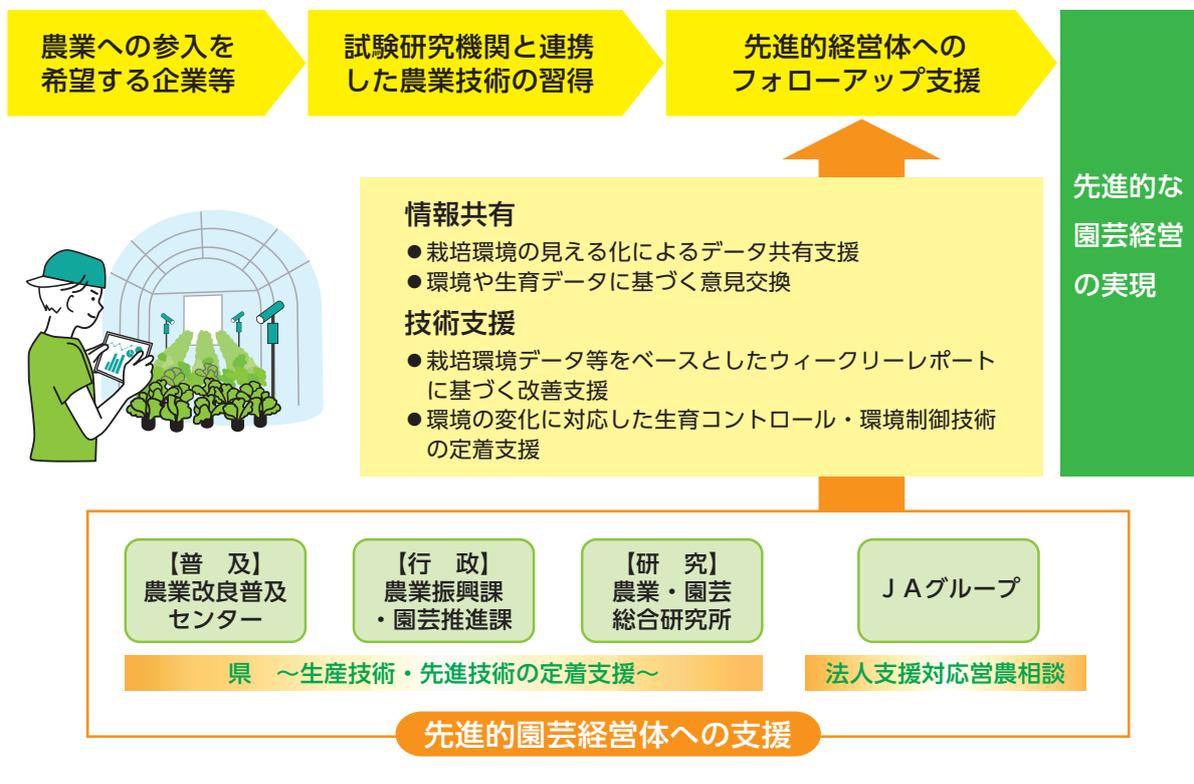
栽培管理者（グロワー）同士が繋がり、成功・失敗事例の共有や意見交換の場を設けることで、互いに技術を研鑽できるネットワーク。グロワー技術交流会や各種セミナーを開催しています。

ネットワークへの参加生産者

イチゴ、トマト、キュウリ、パプリカなどを栽培する個人生産者及び農業法人



～体系図～



環境制御技術の向上と人材育成に向けた研修会の開催



最先端の試験研究施設
軒高6m、最新の環境制御機器を備えた施設

〈宮城県環境を最大限に活用し、施設園芸に取り組む生産者の声〉

栽培に関する感想 ①宮城県の自然環境(気温、日照時間)と栽培について ②生産性を上げるポイント ③今後の目標

(株)デ・リーフデ北上 (石巻市)

栽培品目：トマト、パプリカ
面積：トマト 1.1ha、パプリカ 1.3ha
施設：フェンロー型鉄骨ハウス
利用機器：複合環境制御装置
(CO₂施用機)

収量実績：トマト 50t/10a
パプリカ 20t/10a

2016年8月から栽培開始

栽培についての感想

- ①宮城県の沿岸部は春先の日射量が豊富で降雪が少なく、春から初夏の気温が低いため、環境制御に適した環境であり、トマト、パプリカともに安定した生産を上げている。
- ②自然環境を余すところなく活用した最適な環境制御と、一定のスピードと精度の高い作業管理を実現するパート職員のレベルアップを図っている。
- ③栽培開始2年目でトマトやパプリカの単収は国内トップクラスの実績を上げることができた。今後も環境制御技術の習得、販売部門から求められる品質と高単収を実現していく。



(株)GRA (山元町)

栽培品目：イチゴ
面積：イチゴ 3ha
施設：低コスト耐候性鉄骨ハウス
利用機器：複合環境制御装置
(クラウン温度制御、CO₂施用機、ミスト等)

栽培実績：イチゴ 6t/10a

2011年9月から栽培開始

栽培についての感想

- ①宮城県沿岸部は冬場も晴天率が高く春以降も比較的冷涼なため、イチゴの長期出荷に適した気候環境である。
- ②環境データ、労務管理、収穫量など栽培に関する様々なデータを記録・分析することで、再現性の高い効率の良い栽培手法を確立していく。
- ③近年の気候変動、資材高騰など逆風が吹く状況下でも安定した経営をするために、より高い収穫量の確保と垂直統合モデルにより販売価格の向上を目指す。



「みやぎの施設園芸に興味を持ったら」

問い合わせ先

宮城県農政部園芸推進課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

TEL 022-211-2723 FAX 022-211-2849 E-mail engei-senshin@pref.miyagi.lg.jp



令和5年11月作成